

資料編

1 公民館単位の人口及び世帯の状況

単位：世帯・人

地区別	世帯数	男	女	計
浜田	4,247	4,083	4,666	8,749
石見	6,896	7,666	8,263	15,929
長浜	2,583	2,804	3,220	6,024
周布	2,129	2,553	2,841	5,394
大麻	128	117	140	257
美川	875	1,004	1,161	2,165
国府	2,610	3,030	3,465	6,495
浜田自治区	19,468	21,257	23,756	45,013
久佐	155	203	232	435
今福	222	282	312	594
美又	165	220	231	451
雲城	1,033	1,287	1,368	2,655
波佐	238	309	306	615
小国	92	125	137	262
金城自治区	1,905	2,426	2,586	5,012
今市	490	540	676	1,216
木田	136	166	198	364
和田	268	294	337	631
都川	146	169	188	357
市木	180	192	229	421
旭自治区	1,220	1,361	1,628	2,989
安城	401	438	481	919
杵束	329	333	376	709
弥栄自治区	730	771	857	1,628
岡見	590	697	764	1,461
三保	769	915	1,029	1,944
白砂	115	165	183	348
三隅	879	1,053	1,176	2,229
黒沢	131	153	165	318
井野	391	450	522	972
三隅自治区	2,875	3,433	3,839	7,272
合計	26,198	29,248	32,666	61,914

資料：総合窓口課(平成19年10月1日現在)

2 ワークショップのまとめ

(1) Aグループ

第1回

～地域福祉を進めていくうえで大切にしたいこととは～

- 「意識」と「無意識」
- 次世代へつなげていく
- つながり(すべての人に対する信頼のあるつながり)
- 思いやりと意識(人を思う気持ちと意識的な行動が大切)
- すべてにゆとりを(世話をする人・受ける方・自分自身もゆとりが必要)
- その人らしさ(その人らしさを周りが保障する。ありのままに受け止める)
- 人として支え合う(人間一人では生きていけない。支え合いの大切さ。かわりが必要)

その他、自由意見交換

- 浜田医療センターでは、平成19年10月から患者の退院時にケアマネも含めたスタッフが集まり、話し合いを行っている。現在3例実施。広島県尾道方式を参考に実施(視察も行っている)。浜田では尾道市とは異なり、患者の入院時から計画を作り、その入院治療計画をすぐにかかりつけ医に送り、退院の目安を図ってもらうシステムを作っている。

第2回

～優先的に話し合う課題(テーマ)を決める～

ステップ1 行政サービス・住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人はどんな人か

- 社会資源(相談者・パソコン・制度)をうまく使えない人
- 社会資源から取り残されている人
- 困っていてもそれを発信できない人、ぎりぎりまで頑張る人
- 男性のサロン等への参加が少ない
- 収入が少ないにもかかわらず、制度が受けられない人
- 水道・電気・ガス等がなく、生活している人
- 民生児童委員等の把握からもれている人
- 障害者手帳の対象とならない人
- 引きこもりの人
- 本人からニーズを発信できない人
- 家族のみで頑張ろうとしたり、他人に知られたくないと思う人
- 母子家庭・父子家庭で困っている人
- 40歳代・50歳代の独身者の将来の生活不安

ステップ2 なぜ、サービスや住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人がいるのか

が決まったテーマ

地域力の低下

- 親切心とおせっかいの分別
- 地域力の低下
- 行事に参加しない。車がない

- 共助の精神の欠如では
- 同居意識が少ない

- 隣近所の関係の希薄さ
- 自分の困っていることを相談できる人がいない
- 人間関係の不信感

気づき

- ニーズを恥ずかしいことと思っている
- ニーズを発信できない
- 自ら発信できない人には課題を発掘する人が必要（欠けている）
- 福祉サービスに対する意識啓発がされていない

行政の説明不足と本人の理解不足

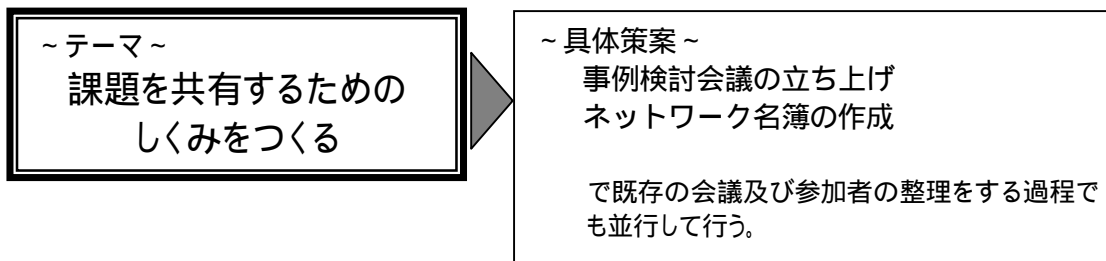
- 手続きが面倒と思っている
- サービスの内容がわからないから発信ができない
- 福祉サービスの利用の複雑さ
- サービス・制度がわかりにくい。利用できない
- ニーズを発信する方法を知らない
- 相談窓口の宣伝不足
- 相談する窓口（またはその存在）を知らない
- （支援する側が）上辺だけの任務になっていないか

課題を共有するためのしくみをつくる

- ネットワークがない
- しきみがない。あっても課題共有の場となっていない
- 連動していない
- 個人 さまざまな会議
- 分断されている
- 課題共有の場。知っている人と知らない人
- 「Aさんは～」「Bさんは～」という視点の会議になっていない（なるべき）
- 解決できた（できる）事例の報告、表示がない
- 官民が参加できる事例検討会がない

第3回

～具体的な取り組みを決める～



<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">具体策案リスト</div> <h3 style="margin: 0;">事例検討会議の立ち上げ</h3>	
概要	<p>公民館単位・自治区単位・全市単位の3つの単位で事例検討会議を立ち上げる。</p> <p>公民館単位の会議で解決できるものは解決する。自治区単位の定例会を開催して公民館単位の会議内容を報告し、公民館単位で解決できない問題を話し合う。さらに、自治区単位の定例会の内容を全市の会議に上げる。</p> <p>1つの会議の人数は10～20名程度。会議の規模によるが、会議の開催は2～3か月に1回程度。</p>
会議参加者	<p>会議の単位によって参加者が変わる。</p> <p>(例)自治会、町内会、サロン・福祉施設の代表者、民生児童委員、福祉委員、医師会、行政、福祉分野の識者など。実務担当者が参加する。</p>
活動主体(事務局)	行政+社協(または事例を抱えている機関)
行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度の説明 ・ 既存の会議、参加者の整理と活用(現在は同じ人がどの会議にも出席しているため、整理が必要)

会議の規模イメージ図

各公民館単位の会議の代表者は自治区単位の会議に出席し、さらに、自治区単位の会議の代表者は全市の会議に出席する、というように、各単位の会議の代表者が上の会議に出席し、各会議をつなぐ(連携をとる)。

公民館単位については、公民館によって人口、範囲に差があることから、規模は地域によって検討が必要。

具体策案リスト

ネットワーク名簿の作成

概要	市内にある各種団体の名簿（連携先名簿）を作成し、ネットワークづくりに活用する。
名簿の掲載内容	団体名・代表者・連絡先・活動内容・ボランティア可能かを明記
掲載の仕方	<ul style="list-style-type: none">・ 団体・機関は官と民で分ける・ 団体・機関はライフステージ別に掲載・ 自治区別に分ける。電話帳のイメージ
活動主体	官は行政、民は社協がまとめる
注意事項	<ul style="list-style-type: none">・ 掲載団体・機関は福祉にとらわれず、さまざまな分野（例えば、地域のスポーツ少年団なども含む）・ 名簿は市民に見える形で公表する・ 定期的な更新が必要・ インターネットを活用。最新情報の更新をする



(2) Bグループ

第1回

～地域福祉を進めていくうえで大切にしたいこととは～

- 気づき（生活の中で、近所の人たちが気づきをもった関係）
- 意識（セミナーなどを通じた意識づけが大切。セミナーには障害者ばかりが集まり、地域に溶け込めていない）
- 危機感、ビジョン（市民も危機感・ビジョンを共有する。地域とのつなぎ役として、コーディネーターの育成）
- つながり（連携からネットワークづくりへ。横のつながりが無い。ちょっとしたあいさつもできていない）
- つながり（おせっかいな人がいなくなった。かわりができなくなってきた）
- 共働（心も大切だが、社会資源を大切に活用していきたい）

第2回

～優先的に話し合う課題(テーマ)を決める～

ステップ1 行政サービス・住民参加のしくみから支援の届きにくい人はどんな人か

- 高齢者虐待
- 認知症の人を抱えた家族
- 一人暮らし（高齢者）
- 高齢世帯、障害児のいる世帯で、誰かが倒れた時（公的サービスを受けるまでの間。例えば、次の日の夕ご飯も困る）
- DV
- 学校の長期休暇中の子どもの食事確保など
- 風呂のない住居にいる高齢者
- 送迎のシステムづくり（中学・高校）
- 急な病気になった
- 福祉弱者
- ハイリスク者だけど、なんとかやっている
- 老人で介護サービスを受けていない人
- 介護認定度が低いために、医療面のサービス（セルフケア）ができない人
- 障害児の閉じこもり
- 発達障害児・者へのサービス
- 子育ての不安 - 虐待
- ひとり親のため子どもが一人になる
- 病気の子どもの保育が小学校3年生までしかない
- 地域性・格差
- 子どもの送迎に対してお金がかかる（高校が遠い）

ステップ2 なぜ、サービスや住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人がいるのか

が決まったテーマ

発達障害児・者の理解不足を解消する

- 障害者の家族が相談しやすい人・場が少ない
- 発達障害児（者）に対して地域（周囲の人）の理解が少ない
- 発達障害児・者を発見、支援するネットワークづくり
- 発達障害、コミュニケーションの課題。学校でよりも、地域で居場所、遊びを

- 高次脳機能障害・難病・若年性認知症など、少ないケースの孤立

- 地域の温度差をなくす。交通システムの構築
浜田市 石見交通・タクシーなど
介護タクシー

公的サービスでは対応できない

- 低所得に対する支援不足

- サービスが申請ありき。当事者がニーズ（今は必要ない支援）を理解し、受け入れないと何も始まらない
- 必要なサービスを受け入れるまで見守り、寄り添うところにお金は出ない
- 介護保険の給付のしくみの不足を補完するサービス

- 認知症の方自身のケアは介護保険でカバーできるが、家族ケアは介護保険サービスにはない。でもとても大切。
ないとストレス
セルフヘルプグループの支援
在宅あきらめ、不適切な対応など

- 現況の認識不足（例えば、高齢だから仕方がないとあきらめている）お金がないからできない
- 支援が必要だが、どこに言ったら良いかわからない

- 必要なことにお金が見つからない

地域力

- 緊急時の対応がしやすいシステムの不備
- ご近所力（困った時のお互い様）の低下
- 相互支援（助け合い）のできる地域づくりはすべての住民の課題。公的サービスだけではカバーできない。この課題に参画していない住民はどうするか。
- 地域で見守る力が不足している（交流がない）
- 要支援者、リスクのある人からの発信不足

- 学童期の時間外支援
- 子どもの遊び空間

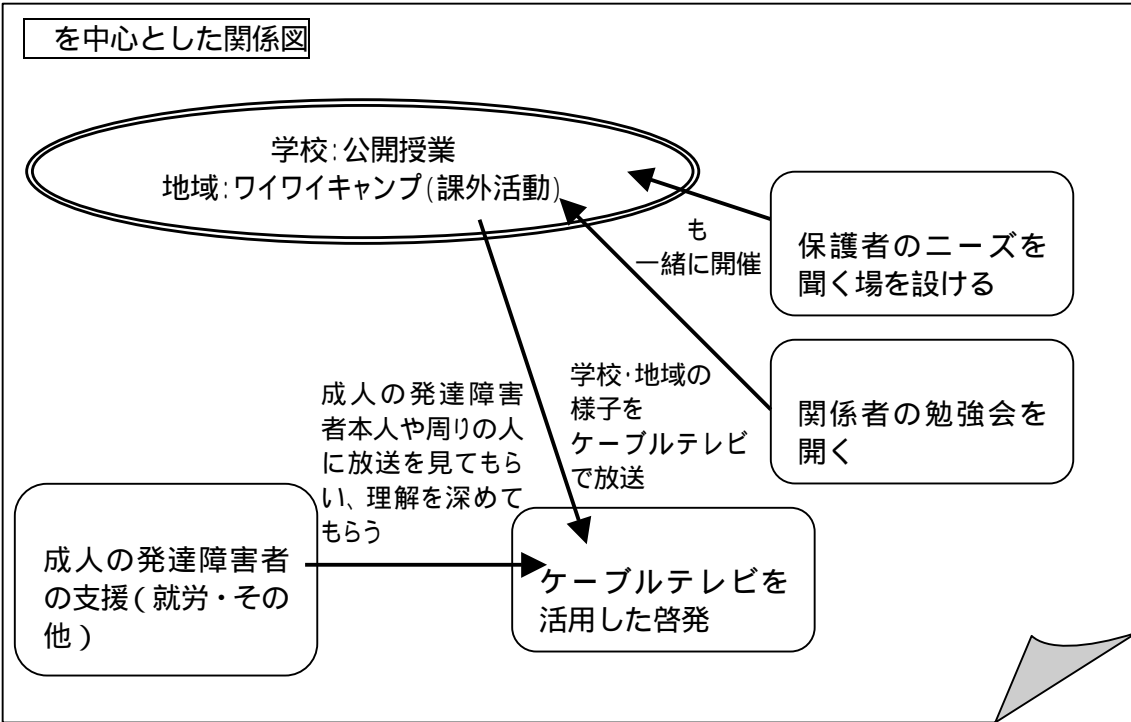
- 外国人の暮らしにくさ

第3回

～具体的な取り組みを決める～

<p>～テーマ～ 発達障害児・者の 理解不足を解消する</p>	<p>～具体策案～ 保護者のニーズを聞く場を設ける 発達障害を理解するための配布物（本・CD等） ケーブルテレビを活用した啓発 発達障害の子どもと学校や地域で実際に接し、理解を深める機会をつくる 関係者の勉強会を開く 成人の発達障害者の支援（就労・その他）</p> <p>～のうち、がキー。関係性は後述。</p>
--	--

具体策案リスト（～を組み合わせた案） 発達障害の子どもと学校や地域で実際に接し、 理解を深める機会をつくる	
概要	<p>本や講座では発達障害を理解することは困難であり、障害者福祉に携わる関係者でも障害について理解できていないことがあるため、実際に障害のある子どもと接して理解する場があることが望ましい。</p> <p>学校が最も取り組みやすいが、子どもの様子は地域と学校では異なることから、学校と地域の両面からの開催が重要。加えて、保護者のニーズを聞く場ともする。</p> <p>一方で、このような場に出て来ない人や発達障害という言葉を知らない人に対して、理解・受容を促すため、この取り組み内容をケーブルテレビで放送し、啓発を進める。</p>
対象者(参加者)	障害のある子どもとその保護者・教員・障害者福祉の関係者
場所	学校（公開）・野外（自然の家など）
活動主体	教育事務所・教育センター
連携先	特別支援教育コーディネーター（企画をしてもらうか?）・ウインド・学校・行政
資金	補助金＋自己負担
行政への要望	関係者の連携を図るための調整



(3) Cグループ

第1回

～地域福祉を進めていくうえで大切にしたいこととは～

- 人と人とのつながり（ネットワーク。場所（家・コミュニティー））
- つながり（関係機関同士。地域の人と人とのつながり）
- すべてに関心を持つ
- あきらめない（心や気持ちに訴えることは困難だが、あきらめずに続けることが大事）
- 見守り（意識づけが重要と感じる。地域福祉は奥が深い）
- 地域福祉を常に意識しながら業務にあたる（推進する上ではあきらめないことが必要）

第2回

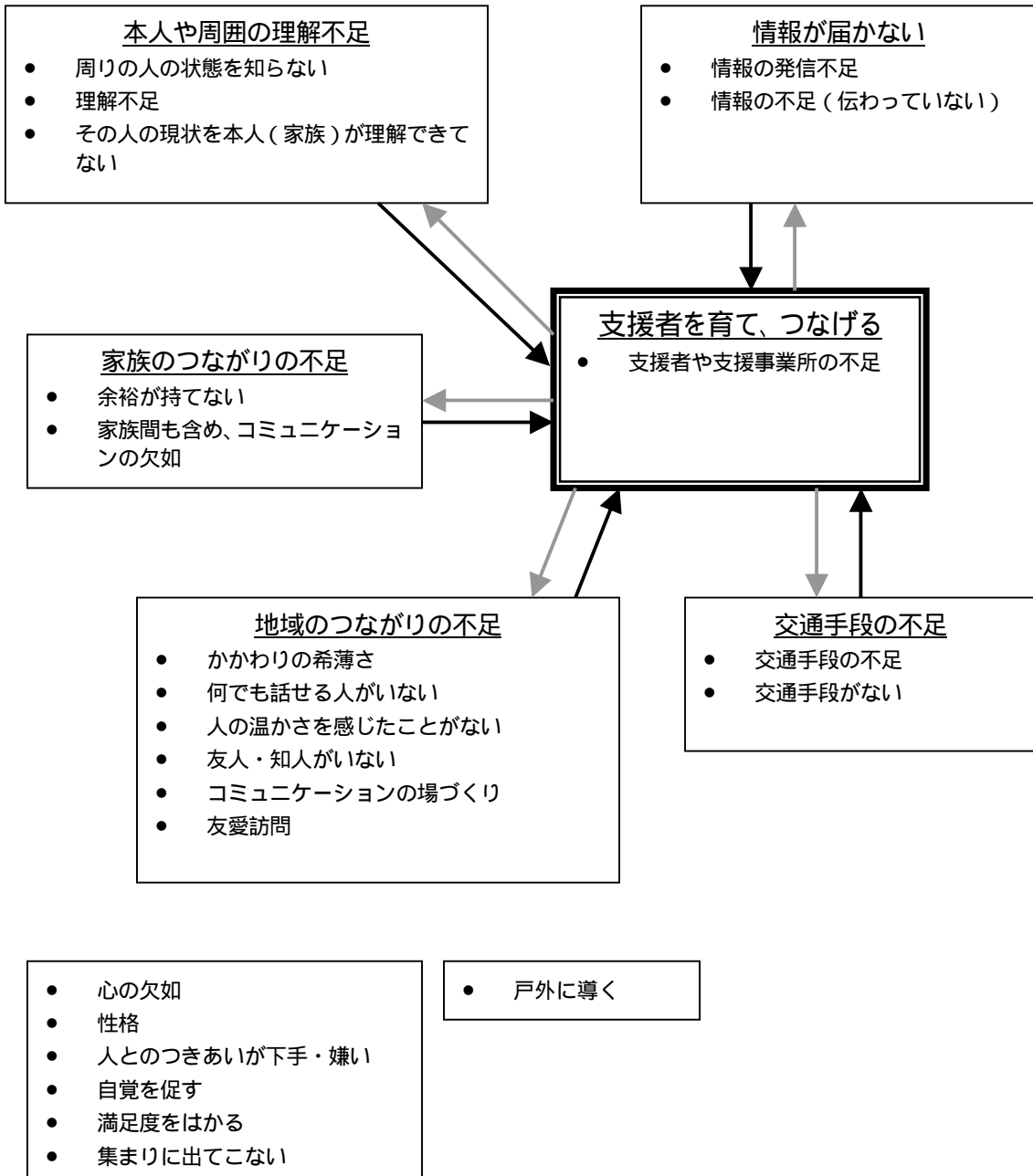
～優先的に話し合う課題(テーマ)を決める～

ステップ1 行政サービス・住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人はどんな人か

- 現状を受け入れられない人
- 閉じこもりの人
- 地域との交流を避ける人
- 一人暮らし
- 外に出る手段がない
- 家族が外に出さない、出させることをしない
- コミュニケーションに欠ける人
- 人嫌いの人
- プライドの高い人（人の意見を聞かない人）
- お金持ちの人

ステップ2 なぜ、サービスや住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人がいるのか

が決まったテーマ



第3回

～具体的な取り組みを決める～

～テーマ～

支援者を育て、つなげる

～具体策案～

コミュニティ単位内の(分野を越えた)専門機関の連携会議
福祉現場などの経験者(退職者)・高齢者クラブなどを活用した地域のリーダー育成

が特に取り組みたいこと。

具体策案リスト

コミュニティ単位内の(分野を越えた)専門機関の連携会議

概要	コミュニティ単位(地域の課題・問題点が把握できる範囲)で専門家が集まり、協議する場を設ける。 さらに、各単位の中で高齢者・障害者・児童等の分野ごとに個別グループをつくり、具体的な事例検討を行い、支援する側同士の連携を図る(支援者同士をつなぐ)。
単位(開催場所)	公民館単位
活動主体	社協
連携先	関係機関
行政への要望	会議の調整

具体策案リスト

福祉現場などの経験者(退職者)・高齢者クラブ
などを活用した地域のリーダー育成

概要	福祉現場などの経験者(退職者)に研修を行い、地域のリーダーとして育成する。
(養成の)場所	公民館・総合福祉センター・集会所・地域活動支援センター等
活動主体	社協
連携先	保健医療福祉の分野で専門的な指導ができる機関・行政
資金	研修は自己負担・経験者による団体設立には補助金等活用
行政への要望	意識啓発・最初からかかわりを持つこと(行政がかかわることによってブランド効果がある)



(4) Dグループ

第1回

～地域福祉を進めていくうえで大切にしたいこととは～

- 人の輪(人の輪がないといろんなことがつながっていかないと思うから)
- 人を思う心・人を大切にする気持ち(信頼関係がないと成り立たない)
- 人とのつながり(一人ではできない問題なので、人とのつながりを大切にする事で輪が広がっていく)
- 福祉は家庭が出発(地域にどう下ろすかが大切)
- 人と人とのつながり・信頼関係が大切
- 同じ目線で(対象者が敏感に感じ、相談が切れることもある)

その他、自由意見交換

- ゆとりを持って、大きな視野で行動したい。
- 以前と比べたら地域がなくなっている。
- 近所の子どもが遊びに来ても親のしつけがなっていないと思うような行動が気になる。
- 親同士のつながりがないので、子ども同士のつながりもないのか？

第2回

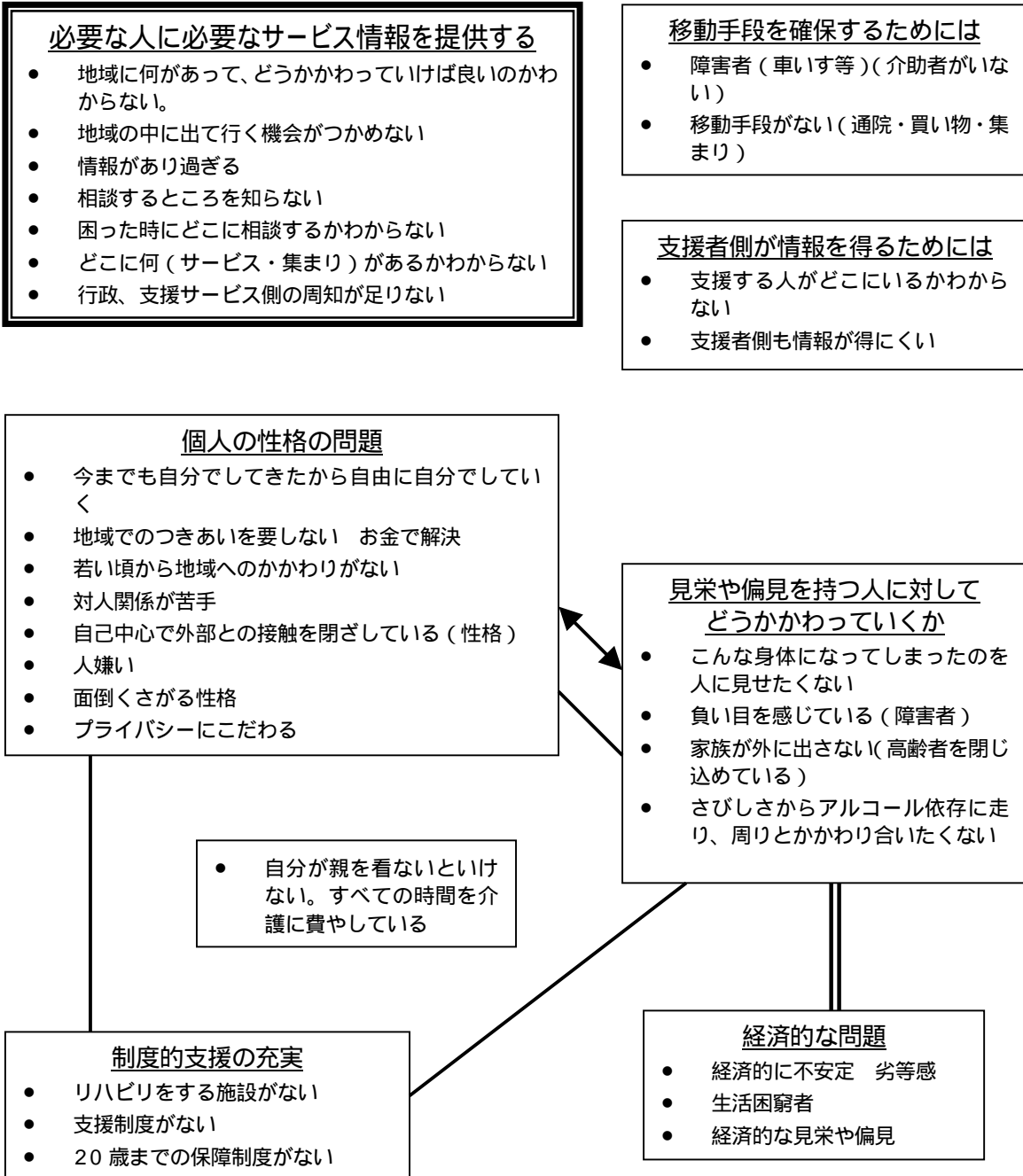
～優先的に話し合う課題(テーマ)を決める～

ステップ1 行政サービス・住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人はどんな人か

- 車や連れて出る人など、外出する手段がない人
- 地域、地域の人を知らない人
- 一人暮らしで時間的に忙しい人
- 面倒くさがりの人
- 地域に無関心な人
- 転入者
- 個人主義の人
- 介護する人
- 友人のいない人
- 閉じこもりの人
- 出たいのに出られない人
- 出たくない人
- うつ病の人
- 治療中断者(病気の人)
- 障害者手帳がない人(制度の狭間の人)
- 養護学校卒業後 20 歳になり年金をもらうまでの間など、家族に金銭的な面で支援をしてもらふ必要のある人
- 虐待を受けている人
- 家族が外に出さない人

ステップ2 なぜ、サービスや住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人がいるのか

が決まったテーマ



第3回

～具体的な取り組みを決める～

～テーマ～

必要な人に必要な
サービス情報を提供する

～具体策案～

公民館等を利用し、クチコミネットワークをつくる
サロン活動を利用し、クチコミネットワークをつくる
インターネットの活用
情報センターを設置する
情報共有パンフレットを作成する

が特に取り組みたいこと。のみリストアップ。

具体策案リスト

サロン活動を利用し、クチコミネットワークをつくる

概要	高齢者は大きな単位では集まりづらい（移動が大変で行きづらい）が、もっと小さい単位だと近くて集まりやすい。そこで、身近な単位としてサロンの場を活用し、サロン活動等に講師に来てもらって話を聞き、聞いた人がその話（情報）をクチコミで地域に広めていく。
場所	既存のサロン開催場所のほか、集会所や民家でも可。
講演内容	<ul style="list-style-type: none">・ 介護・防災・防犯等、生活に関する情報提供・ 趣味、特技を生かした講演（例：絵手紙を書ける人等）
資金	クチコミは資金がかからない。講師を呼ぶ資金はその地域で集められる範囲内。
課題	<ul style="list-style-type: none">・ クチコミのため、きちんとした情報を正しく伝えることが重要。・ 講師に来てもらえるかどうか。・ どんな人を講師に呼ぶか。・ どこに講師となる人がいるかわからない。

(5) Eグループ

第1回

～地域福祉を進めていくうえで大切にしたいこととは～

- 声かけ・双方向（両方から声かけができるような社会にしたい）
- 意識（地域福祉を意識して声かけをする。意識して声かけをすると違ってくるのでは）
- 個人の意志の尊重（やりたくない人の気持ちも大切にしたい）
- 声のかけ合い（「おはよう」「元気」などの声かけで親近感が生まれる）
- 「ふ」だんの「く」らしが「し」あわせに
- 共助のネットワーク（移送問題）

第2回

～優先的に話し合う課題(テーマ)を決める～

ステップ1 行政サービス・住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人はどんな人か

- コミュニケーションを好まない人
- 移動手段のない人（支援したいが事故が...）
- 町内活動に参加しない（忙しくなっている...）
- うつ状態の方など、こちらからかかわりにくい（親族に依存している・パラサイト）
- 障害があって就労できない人
- 介護保険の対象にはならないが、遠くまでは歩けず、交流しにくい
- 本人が何らかの問題を持っていても家族や本人がかかわりを持つことを拒む場合
- 一人暮らし高齢者
- 低所得者
- 夫婦で視覚障害
- 地域全体で高齢化、集落に店などもない...

ステップ2 なぜ、サービスや住民参加のしくみから支援の手が届きにくい人がいるのか

が決まったテーマ

移動手段を確保する

- 高齢者等の生活移動手段
- 交通手段がない(山間地域等)
- 責任問題

- 近くにお店がない
- 山間地からの人口流出
- 障害があっても働ける場がない
- 就労する場所がない

生活全般にゆとりを持つ

- 労働時間が長いためのゆとり不足
- 生活にゆとりがほしい
- ゆとりがない(気持ち・時間・お金・仕事・生活)
- 子育て最中で、時間的にも精神的にもゆとりがない

- 独居(認知)への対応。地域のかかわり

身近な所で交流の場を確保する

- 地域行事に誰もが参加できる取り組み
- 高齢者のゴミだし。障害者のゴミだし
- 障害のために町内活動に参加できない

- 子どもたちへの正しい福祉教育(まずは大人から)
- 情報にアクセスする能力(教育の問題)
- 家庭や地域の理解不足や偏見

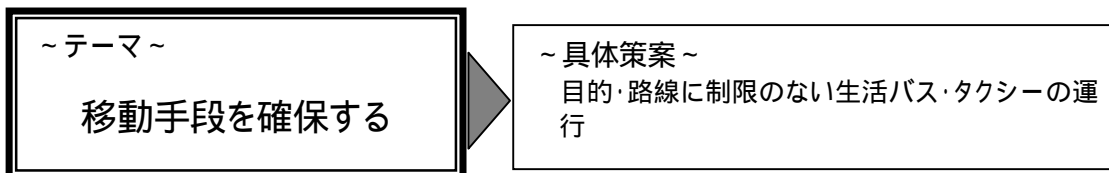
- 周囲を気にかける、気持ちに欠ける
- コミュニケーション下手、苦手
- コミュニケーション不足
- 無関心
- 性格による
- 地域への無関心
- 近所同士のコミュニケーション不足

身近な問題を解決する方法

- 生活上の困りごとを身近で解決できないか
- 家族や本人にとって信頼できる相談相手がない
- 介護保険の谷間にいる(健康面で)

第3回

～具体的な取り組みを決める～



<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">具体策案リスト</div> 目的・路線に制限のない生活バス・タクシーの運行	
乗り物	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス（スクールバスや社協所有のバスなど、空いているバスを活用） ・ タクシー（普通のタクシーで相乗り制度をつくる）
利用目的	買い物・通院等、生活のあらゆる場面で利用可能。
路線	路線の形態はいろいろあると良い。自宅からバス停への接続など、基幹線を補完するための路線（手段）が必要。
活動主体	自治会
連携先	行政、社協、バス・タクシー会社
資金	行政、社協、利用者負担
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資源（市・社協等が所有する空き車両、バス・タクシー会社）の有効活用。 ・ 自治会（地域住民）が活動主体となることで、地域内の交流が深まる。
行政への要望	バス・タクシー会社への事前の働きかけなど、地域住民が取り組めるようにしくみをつくる。

(6) ワークショップ参加者の感想

3回のワークショップを終えての参加者の感想

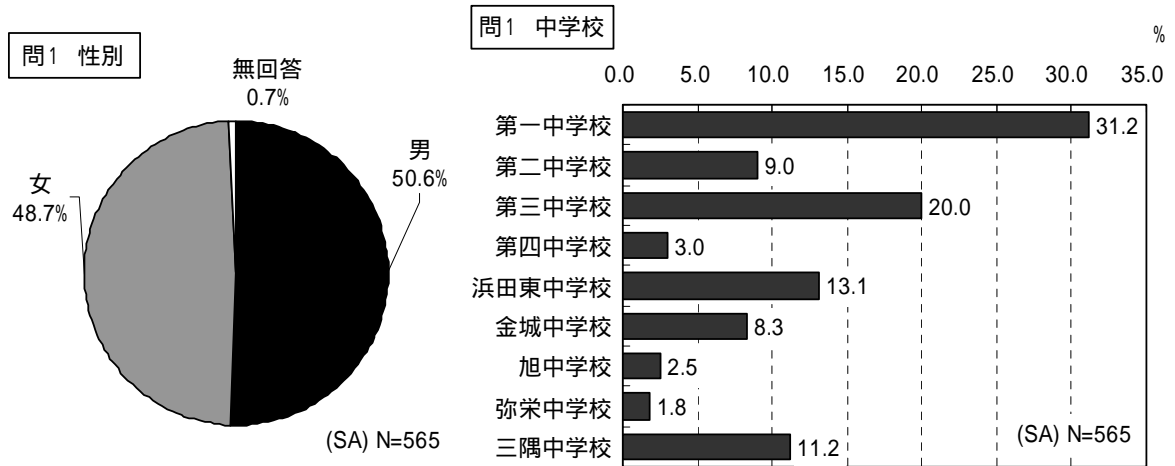
ご意見
<p>浜田市地域福祉計画会議に端を発し、ワークショップが開催され、多くの意見を聞くことができたことに感謝している。しかし、これで終わりではなく、以後定期的にこの意見、希望を具体化するための会議を重ねていかねばならない。一市民としてこのような連携の会をお願いしたい。</p>
<p>多分野の方からの意見を聞くことができ、貴重な時間となった。地域福祉を進めていく中で重要であると感じたことはマンパワーであると思う。フォーマル・インフォーマルを含めた支援機関の存在をそれぞれが知って活用することが福祉の充実を図ることにつながるのだと当たり前ながら実感した。Aグループの具体策に「名簿の作成」という話があったが、あれば非常に助かる。作成していただけた折にはぜひいただきたいと思う。</p>
<p>このような集まりを続けていただきたい。計画を実行していただきたい。</p>
<p>2回の検討では時間が少なかった。もう少し具体的な話ができればと思った。もう一つ目的・目標が整理できていなかったのが残念だった。うまく意見をまとめられなかったが、皆さんの話が聞いて良かった。</p>
<p>大変勉強になった。今後の活動に生かせるように努めたいと思う。このような機会を計画していただいたことに感謝する。</p>
<p>最初はどのようなワークショップになるのか不安だったが、回数を重ねるごとに自分の知らなかった多くの情報を得る機会となったと思う。</p>
<p>ワークショップは非常に楽しく勉強になった。さまざまな機関の方が参加され、共有できた課題もあり、ちょっとネットワークができたような気持ちだ。このようなワークショップでできた関係をしくみにしてほしい。</p>
<p>子育て支援にかかわることで発達障害について以前から興味があったが、理解を深めることができた。3回のワークショップにより、地域福祉を再確認できた。</p>
<p>このワークショップに参加させていただき、いろいろな意見が聞いて大変おもしろかった。こういったワークショップの開催を通じてより良い浜田市になるよう、共助の精神で進んでいきたいと思った。</p>
<p>当初、公費を使ってするだけの中身になるか疑問だった。有意義にするためにテーマを絞ったこと、ファシリテーターが上手だったこと、皆がイメージできるだけの経験もあり、とても良いワークができた。ただ、福祉計画全体の大きな枠組は何か、「地域」とは何か、コミュニティーとは何かなど基本的な言葉の定義をきちんとしないといけない。エンパワメントなどいろいろよく使うが、わかりにくい言葉をきちんと前提として押さえていく必要はあると思う。一番知りたいのはコミュニティーのコーディネーターの育成。</p>
<p>グループワークを重ねるうちに課題が見えてきた。諸団体(今回のメンバー)の多くの意見が聞いて良かった。こうしたメンバーのネットワーク会議が立ち上がれば良いと思う。社協としても考えていきたい。</p>
<p>このようなワークショップが定期的に開催されると良いと思う。浜田市地域福祉計画の作成及び改正に役立っていくことを願う。年度ごとの見直しに。</p>
<p>いろいろな方が集まってワークショップが開催されたが、すごいメンバーが集まっておられ、良い出会いができたと思う。</p>

ご意見
Bグループのテーマは初め、テーマを聞いた時には的を小さく絞ったテーマだったため、議論が進むのかと思ったが、多方面のいろいろな経験をお持ちの方が集まっている今回のワークショップではどんどんと私では思いも寄らないような意見が出て、私自身とても勉強になった。さまざまな視点から一つのテーマに対して考えるという今回の会はとても良かったと思う。
私は今まで弥栄村より大きな規模の会議等に出たこともなく、福祉の現場にいるわけでもなく、そういう意味でいろいろな方の意見が聞けて良かった。イメージできない部分もたくさんあったが、ネットワーク会議についてはメンバーに必ず若い人を入れていくというのを入れてほしいと思う。
まず、いろいろな分野の方との出会いができたことにお礼を申し上げる。福祉についての思いは同じであったように感じた。このワークショップでの検討事項は早急にできることから、自らも進めていきたい。
普段話をあまりする機会のない方たちと、一つのテーマをもとに話し合うことは楽しいことだった。3回全部出席できなかったことが残念だった。
これだけの分野から集まって、市内の暮らしの問題について討議することが本当にうれしく大切だと感じた。3回ではまだまだ少ないと思うが、同じ課題について共有・共感できたことが今回の一番の収穫だと思う。毎年こういった機会を設けていくためにも行政・社協・関係機関団体のネットワークづくりの重要性を改めて感じ、また、交流を図っていきたいと思う。
話し合いの内容よりはさまざまな活動をしている方たちと話し合う過程自体が楽しかった。福祉関係者以外の方たちのアイデアや発想という観点もあっても良かったと思う。
各団体からたくさんの方が参加され、お互いにいろいろな立場からの発言、情報に接することができ、本当に参考になった。良い勉強会になった。穏やかに話し合いが進められ、今後のそれぞれの活動の中に生かされていくことだと思う。今後も身近な地域でこのようなワークショップが持たれると良いかなと思った。知り合いになれた方々とこれからも連携をとっていききたいと思う。
大変有意義なワークショップであった。3回のワークショップの内容を地域福祉計画の策定にぜひ活用してほしい。
同じテーマを異業種の人と意見を交わすことにより、それぞれ発想がすばらしく、視野が広がった。行政だけとか同業種だけで考えるのではなく、このような方法で施策の企画等ができれば効率的な住民のニーズにあった施策が展開できると感じた。このような場(市民参加)をどんどんつくってほしい。そして今あるものを有効活用していく等の知恵も大切であると感じた。3回楽しく参加できた。
大きな計画よりも小さな具体策が動き出すことを願っている。ケネディの言葉より、国(市)が何をしてくれるのかを期待するのではなく、国(市)に対して自分が何をできるのかを問う地域力がつくことを願っている。年2回程度、このようなメンバーが集まり、検討会を持てることを願っている。
ワークショップに参加して、課題の整理、解決策等、一連の手法が参考になった。いろいろな意見が出て良かった。移動不便者に支援するしくみが住民参加や公的資源の活用によってできれば良いと思う。
福祉に関する考え方、いろいろな団体の寄り合いのため、話し合いに問題があるかと思ったが、福祉に関する考えは皆一緒であることが良くわかった。大変おもしろかった。皆様の考え方、良い勉強になった。

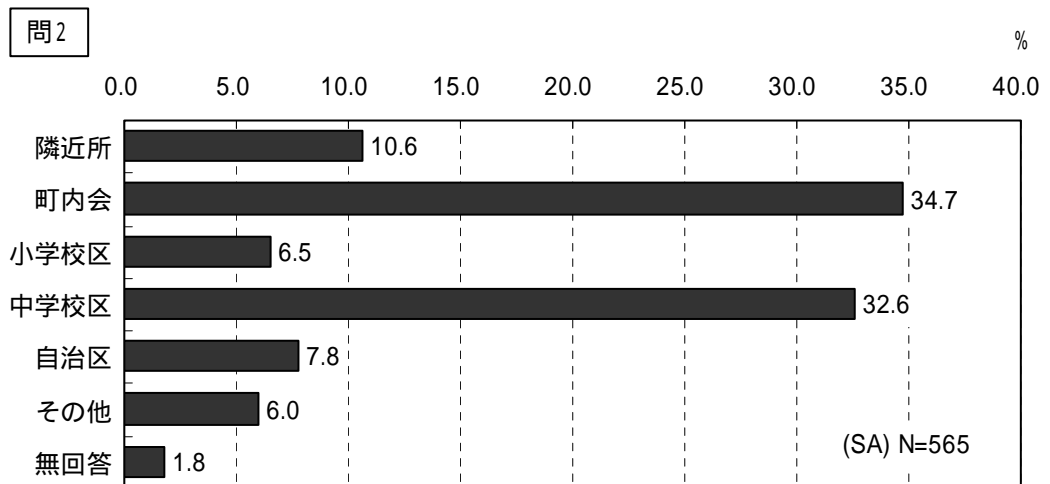
3 アンケート調査結果

中学生対象アンケート調査

問1 あなたについてお聞きします。

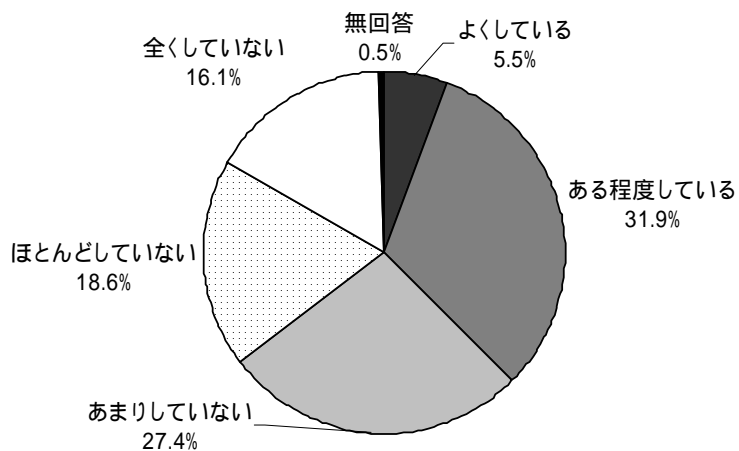


問2 あなたが身近に感じる「地域」はどの範囲のことをいいますか。
(1つだけ)



問3 あなたは地域の行事や活動などに参加していますか。(1つだけ)

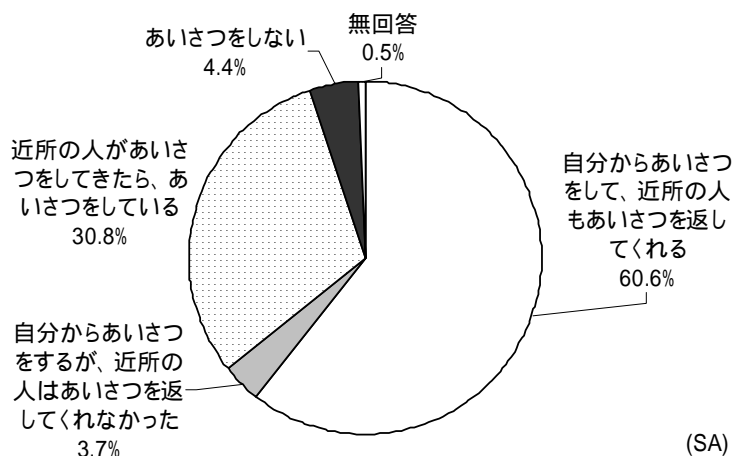
問3



(SA) N=565

問4 あなたは近所(町内・集落内)の人とあいさつをかわしていますか。(1つだけ)

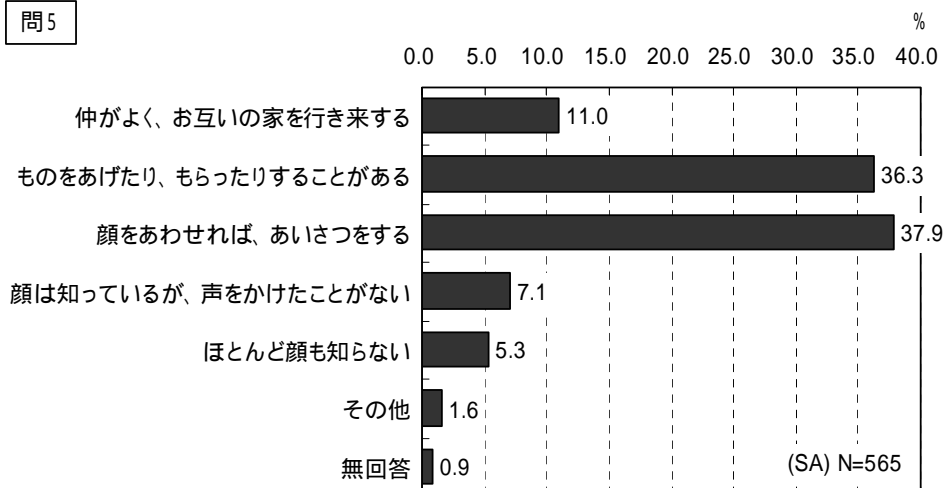
問4



(SA) N=565

問5 あなたの家と近所との付き合いはどの程度ですか。(1つだけ)

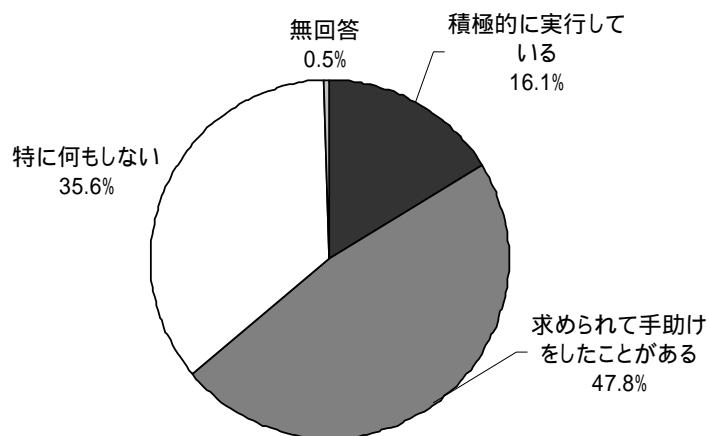
問5



(SA) N=565

問6 困っている人を見かけたとき、手助けをしていますか。(1つだけ)

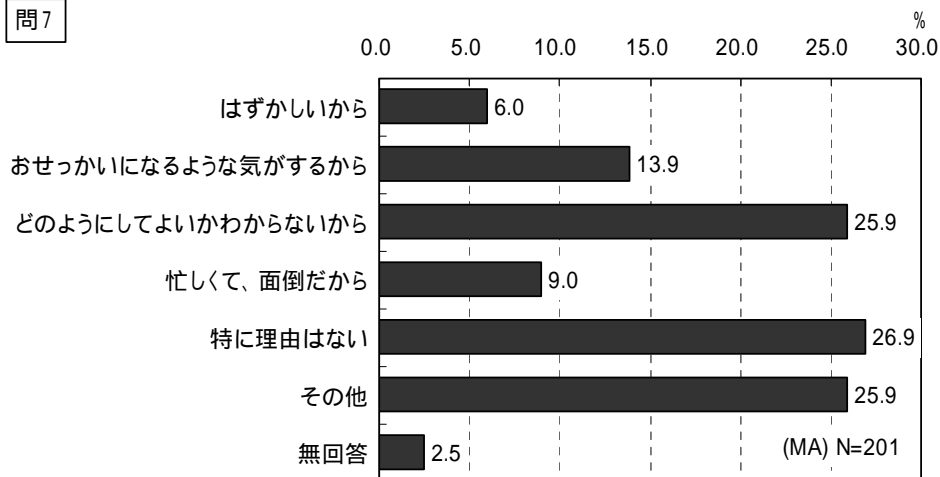
問6



(SA) N=565

問7 問6で「3 特に何もしない」と回答した人にお聞きします。「特に何もしない」理由は何ですか。(はいいくつでも)

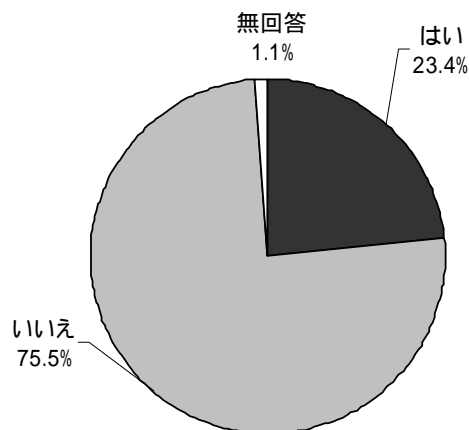
問7



(MA) N=201

問8 ボランティア活動を紹介する「からすみ」を知っていますか。

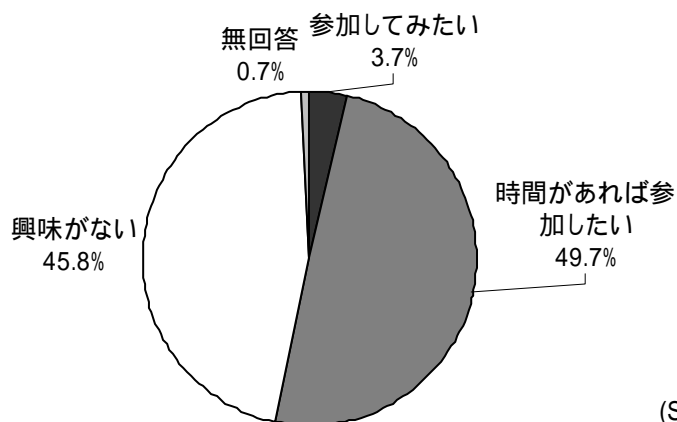
問8



(SA) N=565

問9 あなたはボランティアについてどう思いますか。(1つだけ)

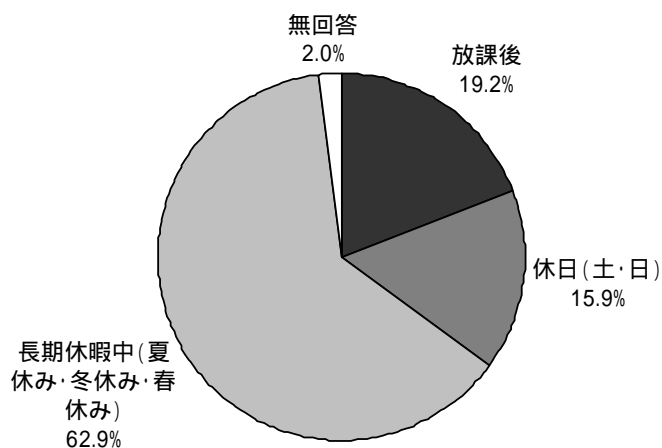
問9



問10 問9で「1 参加してみたい」「2 時間があれば参加したい」と回答した人にお聞きします。

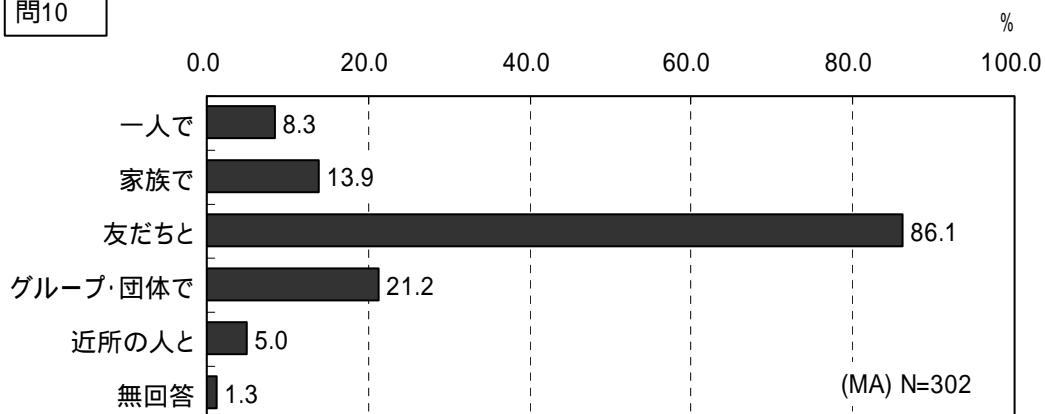
参加するとしたら、いつしてみたいですか。(1つだけ)

問10



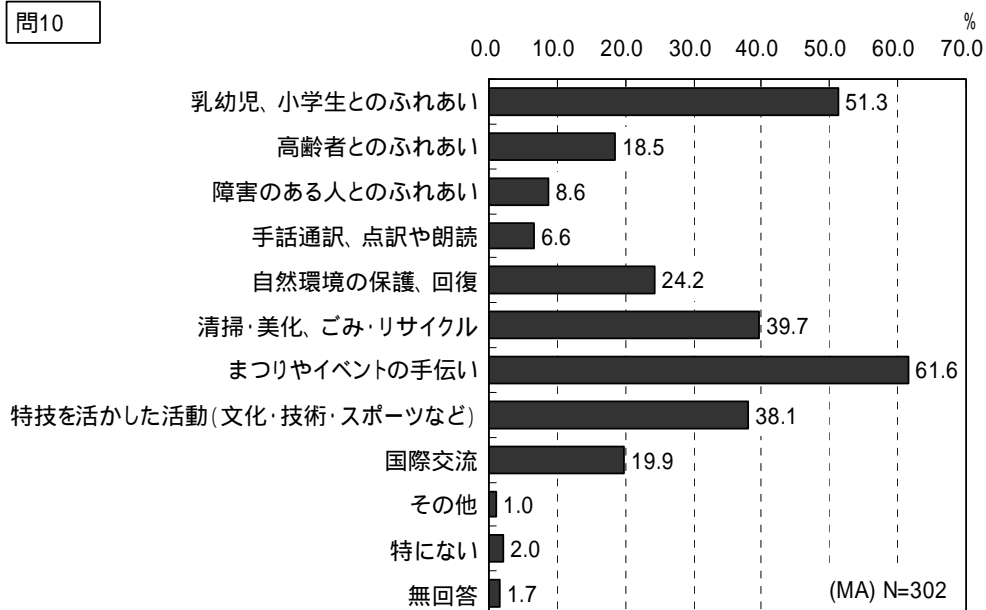
誰と参加したいですか。(はいいくつでも)

問10



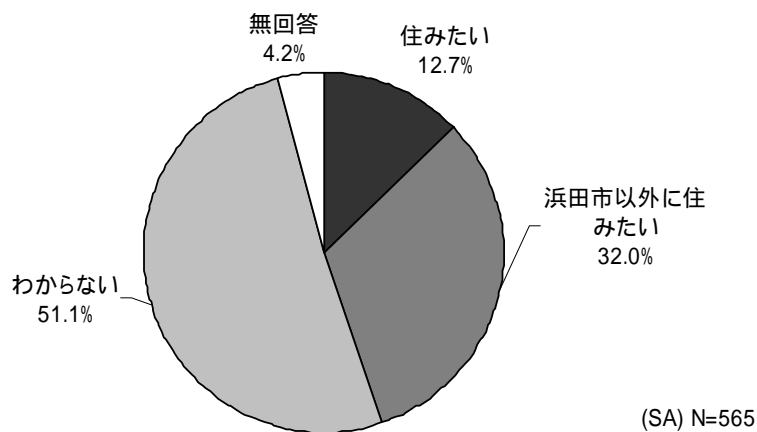
どのような活動に参加したいですか。(はいいくつでも)

問10



問11 将来、浜田市に住みたいですか。(1つだけ)

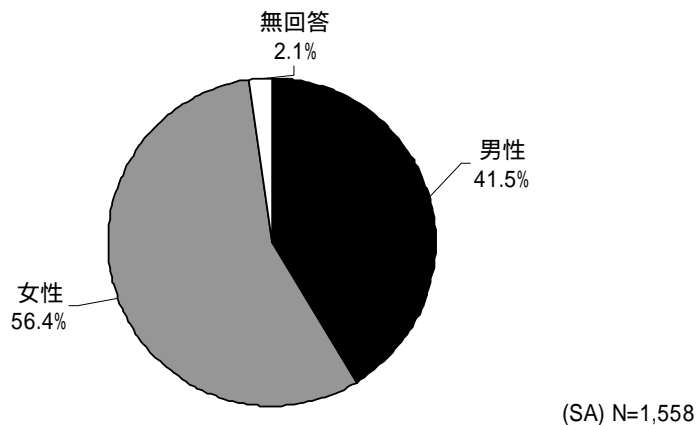
問11



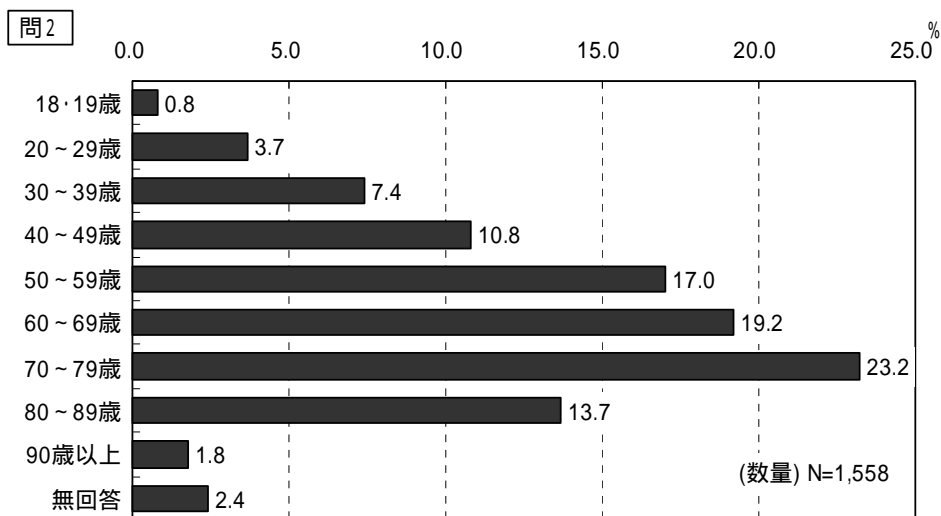
一般対象アンケート調査

問1 あなたの性別は。

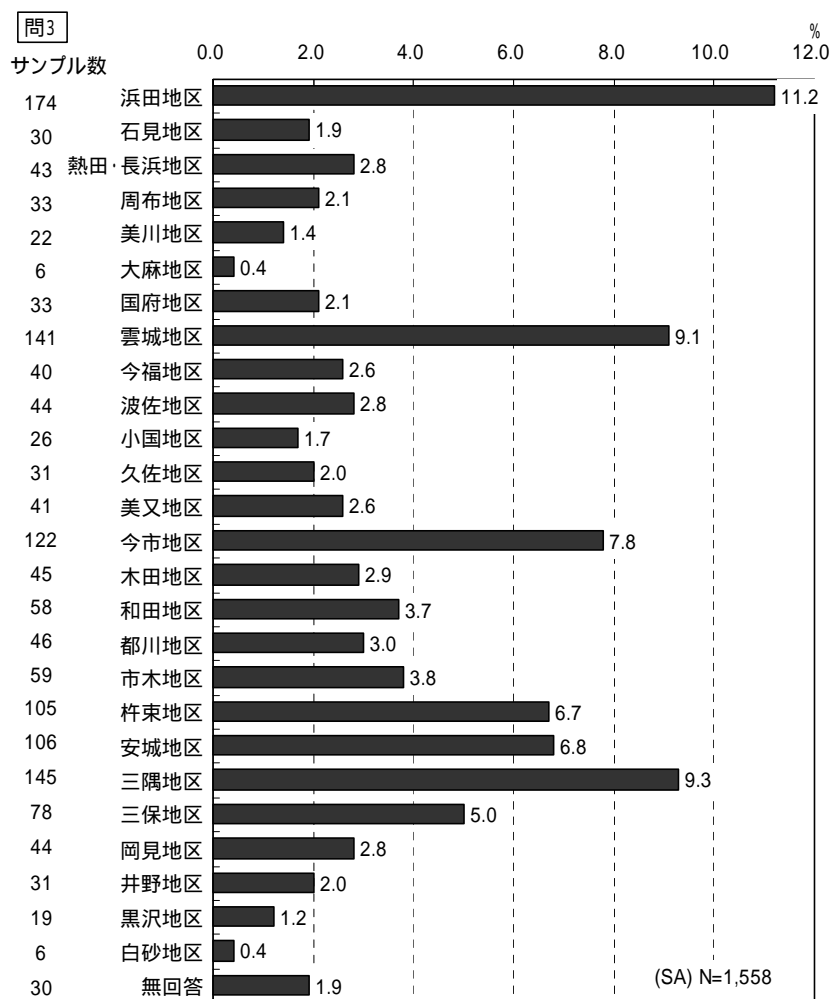
問1



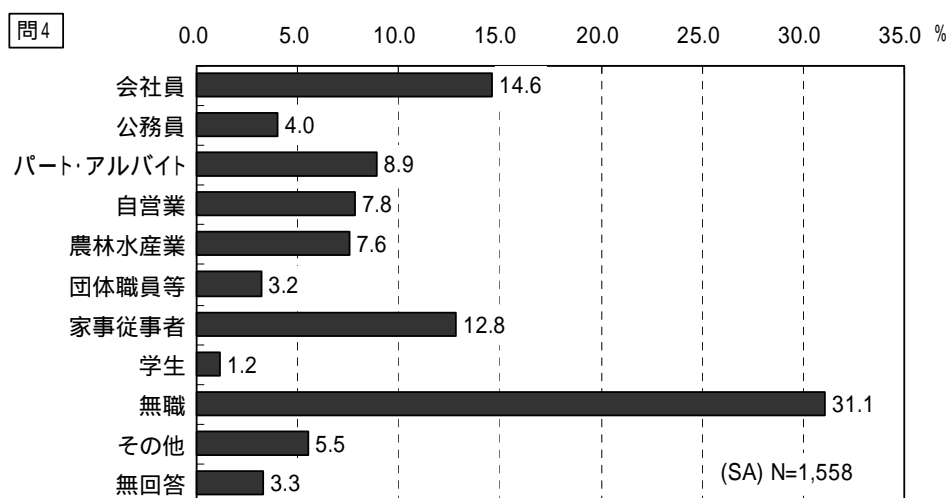
問2 あなたの年齢は。(平成19年3月1日現在)



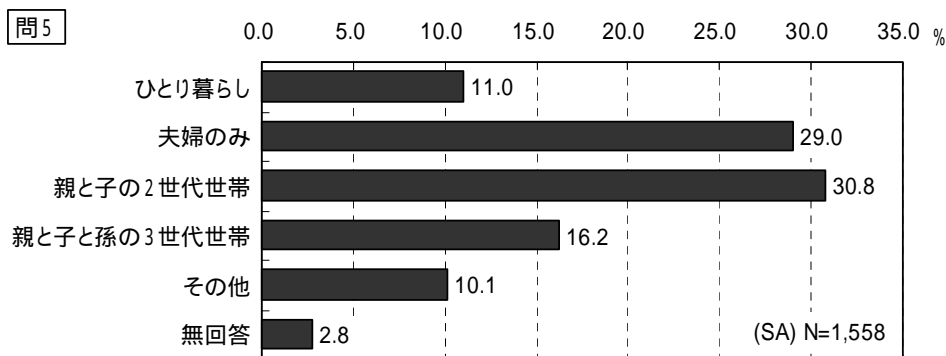
問3 あなたのお住まいは。(1つだけ)



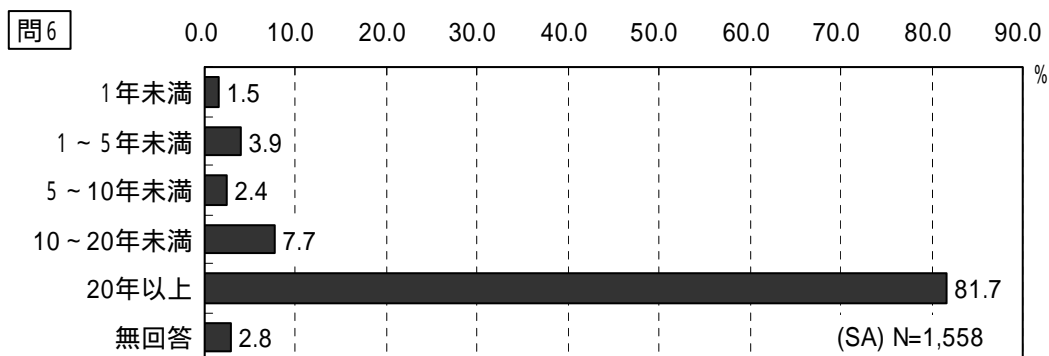
問4 あなたの職業は。(主なものを1つだけ)



問5 誰かと同居していますか。(1つだけ)



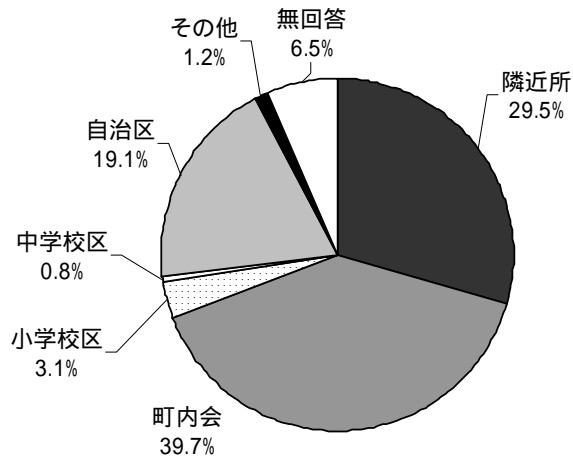
問6 浜田市に住んで通算(市外に住んでいた期間は除く)何年になりますか。(旧浜田市・旧金城町・旧旭町・旧弥栄村・旧三隅町としての期間を含みます。)(1つだけ)



問7～問40は健康増進計画に関する設問のため、省略

問41 あなたにとって住民が助け合うべき「地域」とはどの範囲のことをいいますか。(1つだけ)

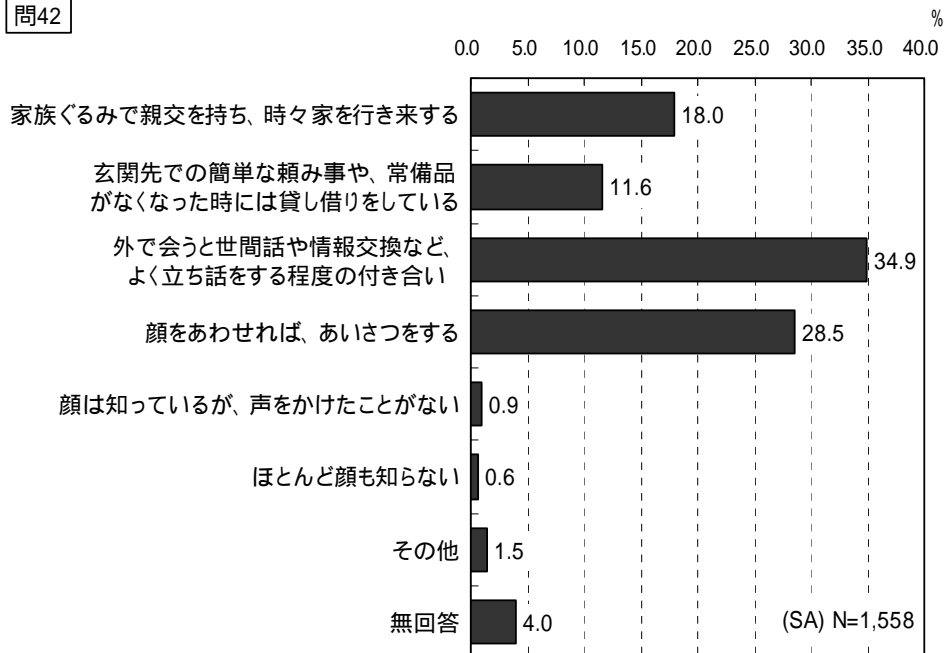
問41



(SA) N=1,558

問42 あなたは、ふだん近所の方とどの程度のお付き合いをされていますか。(1つだけ)

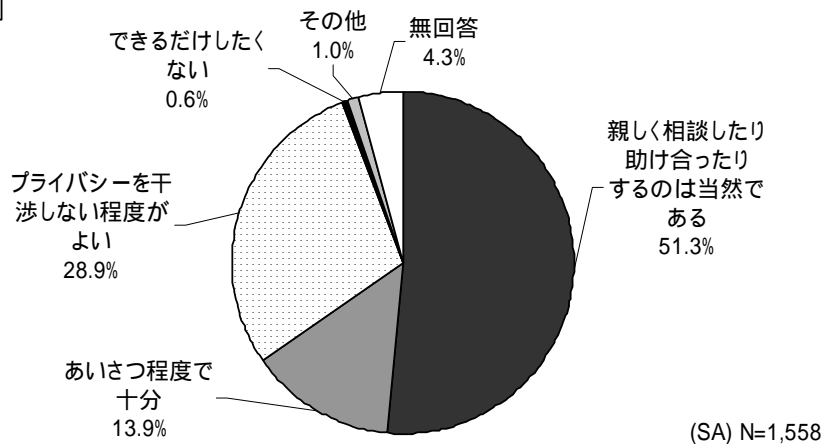
問42



(SA) N=1,558

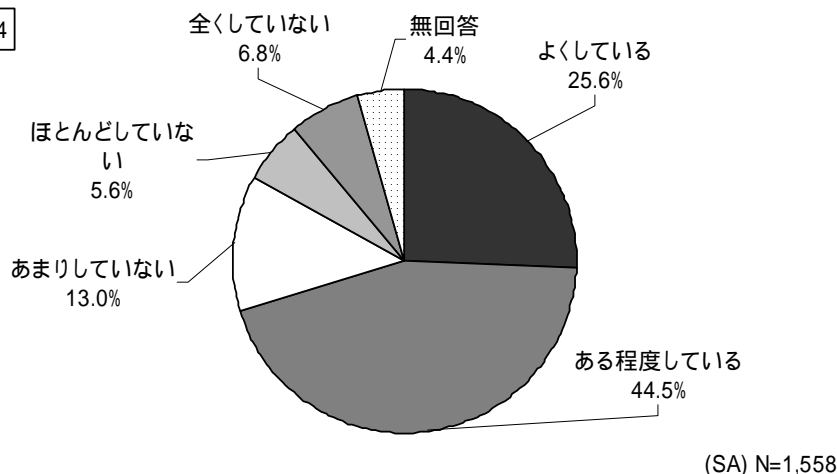
問43 あなたの近所付き合いに対する考え方は、次のどれに近いですか。
(1つだけ)

問43



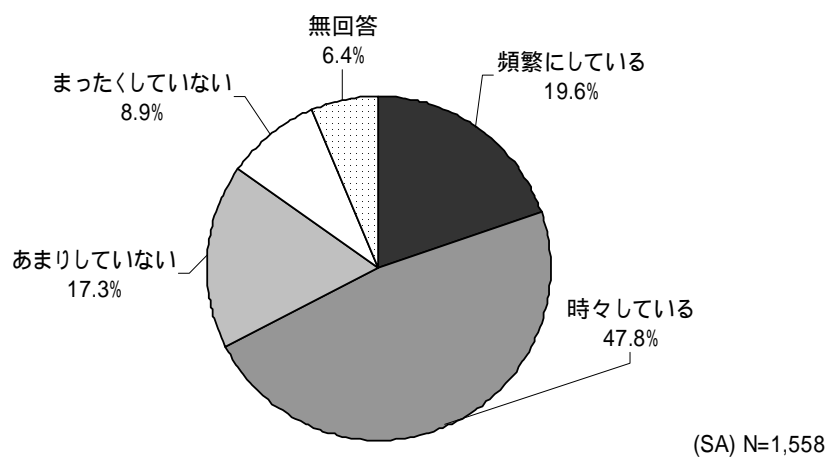
問 44 あなたは地域の行事や活動などに参加していますか。(1つだけ)

問44



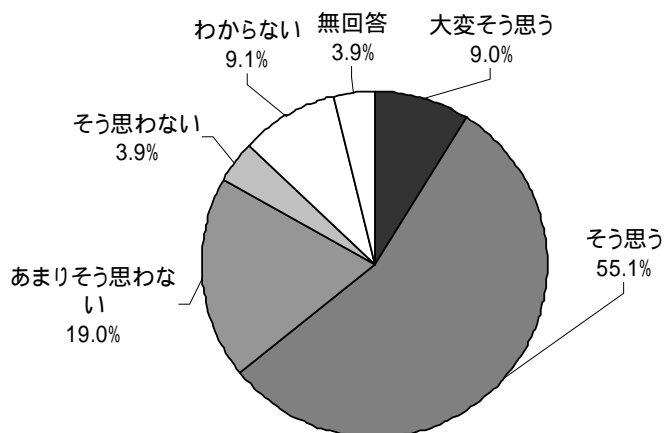
問 45 あなたは地域の子どもたちに注意を与えたり、あいさつなど声をかけたりすることはありますか。(1つだけ)

問45



問 46 あなたの住んでいる地域は、お互いに助け合っていると思いますか。
(1 つだけ)

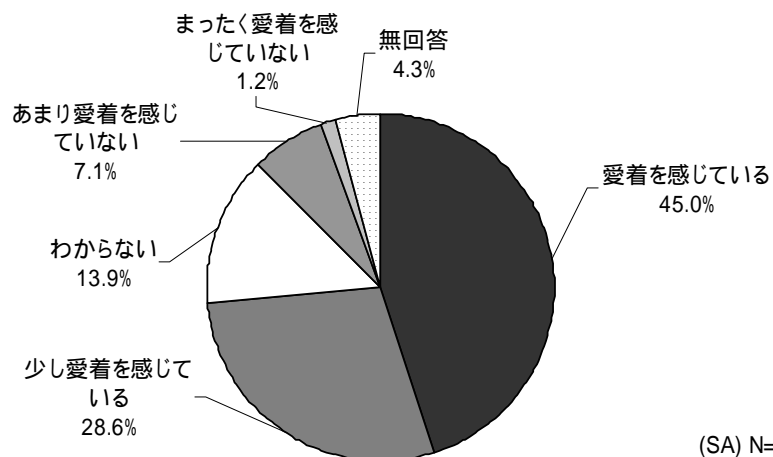
問46



(SA) N=1,558

問 47 今お住まいの地域に対して、どのように感じておられますか。(1 つだけ)

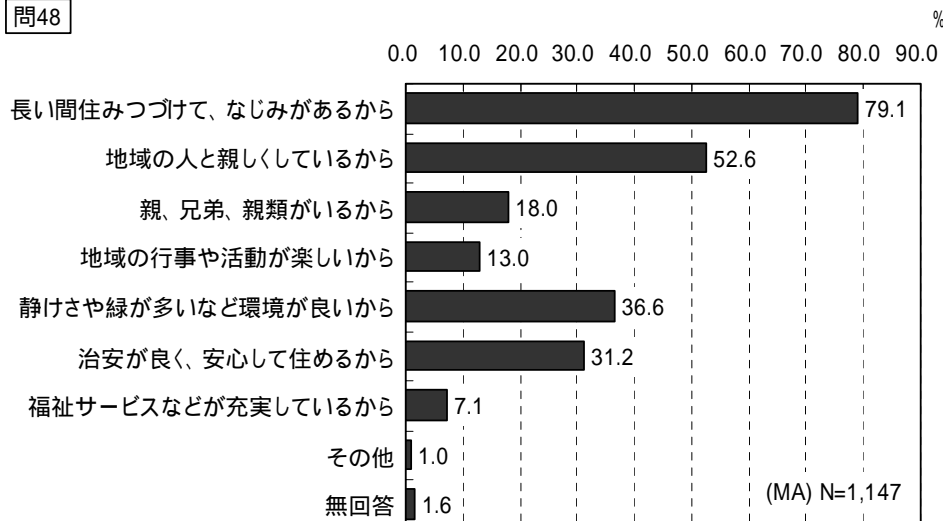
問47



(SA) N=1,558

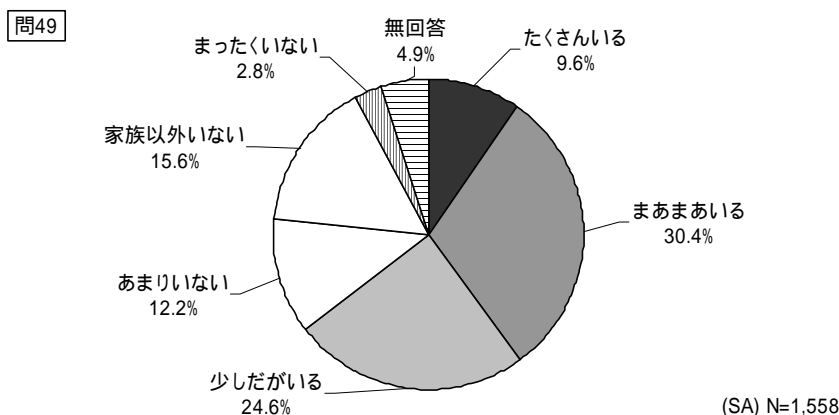
問 48 問 47 で「1 愛着を感じている」「2 少し愛着を感じている」と回答された方にお聞きします。お住まいの地域に愛着を感じているのはどういうことからですか。(はいいくつでも)

問48

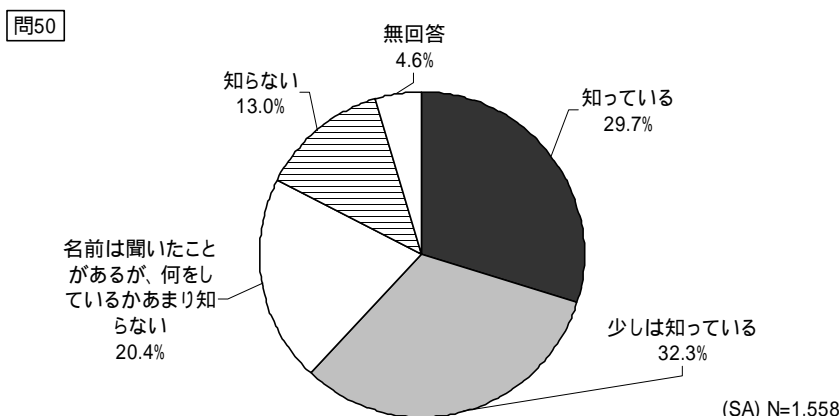


(MA) N=1,147

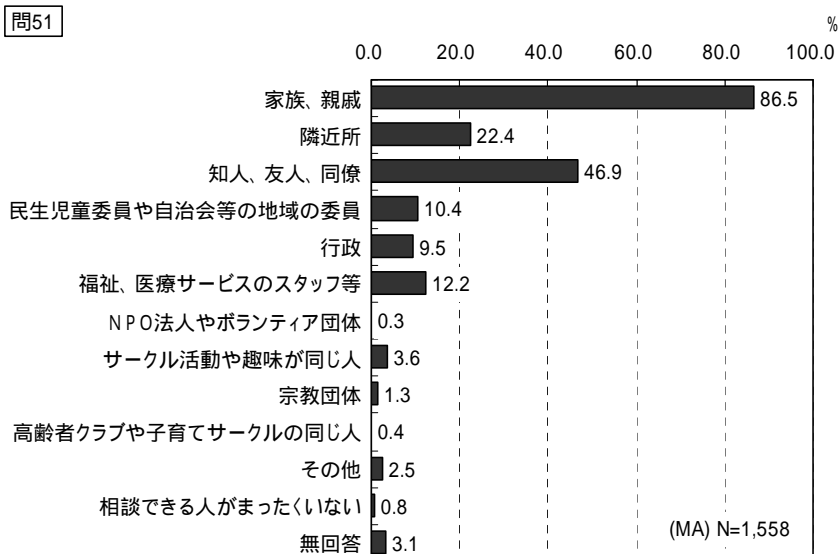
問 49 あなたは困ったことや心配ごとが生じたときに、あなたの地域ですぐに相談できる方がいますか。（1つだけ）



問 50 各地域では、だれもが安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざして「民生児童委員」がさまざまな活動を行っています。あなたは民生児童委員の活動や役割を知っていますか。（1つだけ）

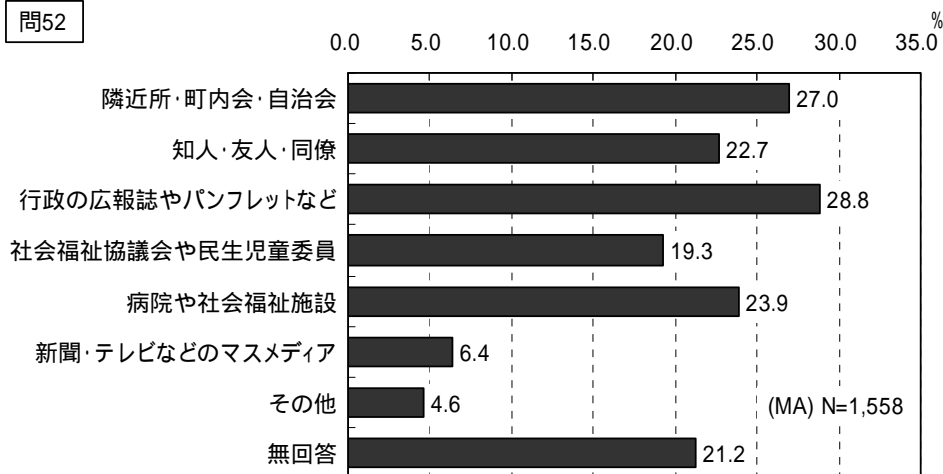


問 51 あなたは困ったことや心配ごとが生じたときに、だれに相談しますか。（はいいくつでも）



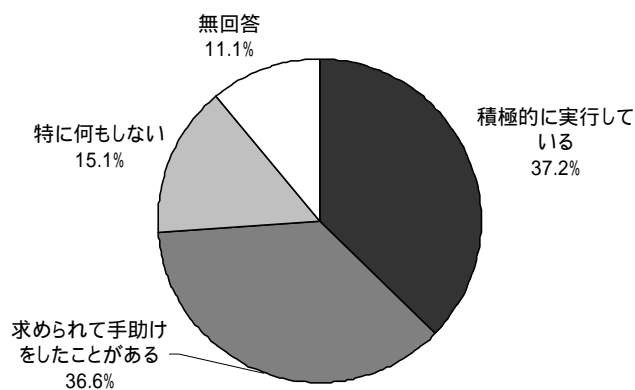
問 52 あなたを含め家族が、今までに高齢者、障害のある人、児童などの福祉サービスを利用された時、その福祉サービスの情報をどこから入手されましたか。(はいくつでも)

問52



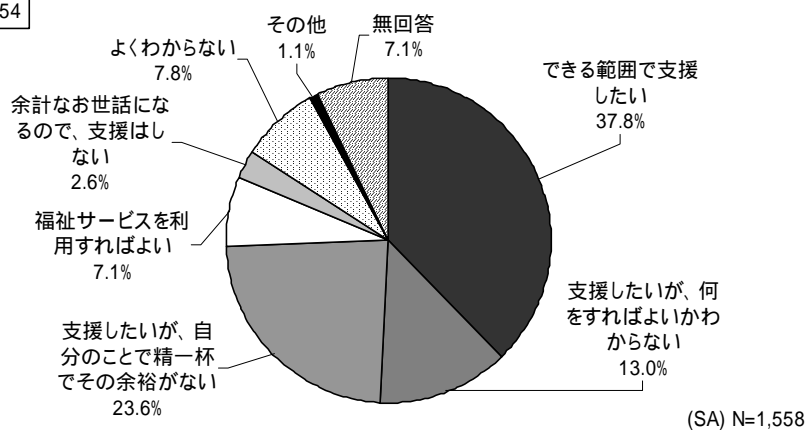
問 53 困っている人を見かけたとき、手助けをしていますか。(1つだけ)

問53



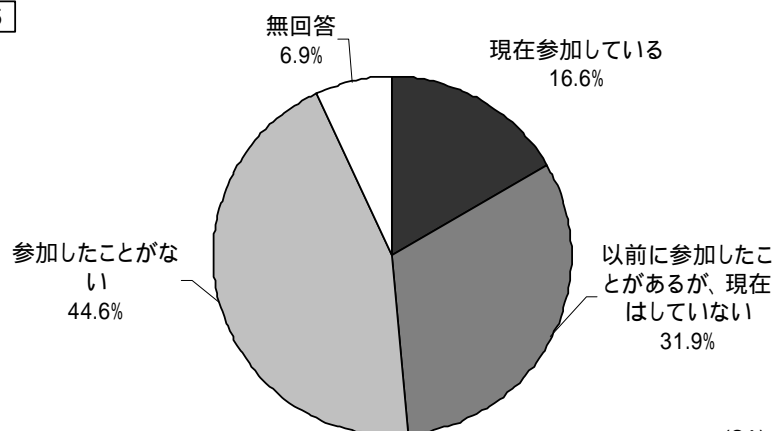
問 54 あなたのご近所で高齢者や障害のある人、子育てなどで困っている世帯に対する支援について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(1つだけ)

問54



問 55 あなたは、今までボランティア活動に参加したことがありますか。
 (1つだけ)

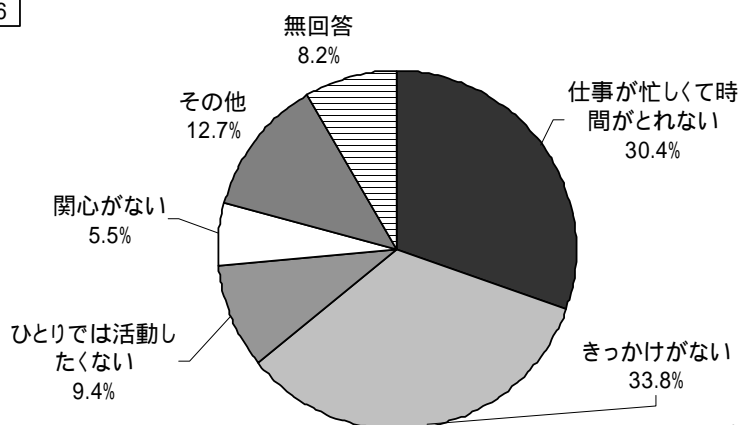
問55



(SA) N=1,558

問 56 問 55 で「 2 以前に参加したことがあるが、現在はしていない」「 3 参加したことがない」と回答された方にお聞きします。活動が難しい原因は何だと考えますか。(1つだけ)

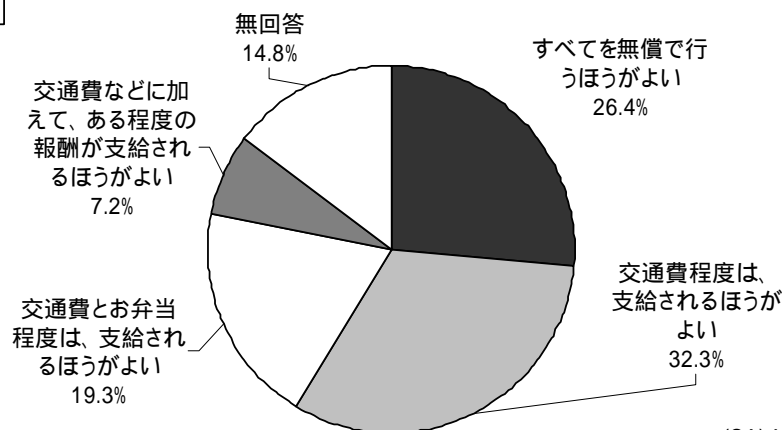
問56



(SA) N=1,192

問 57 ボランティア活動のあり方について、あなたの考えがもっとも近いものを選んでください。(1つだけ)

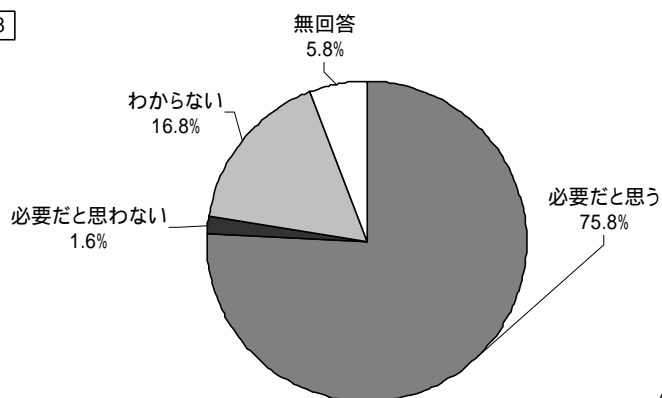
問57



(SA) N=1,558

問 58 あなたは、地域でおきるさまざまな生活課題について、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの関係が必要だと思いますか。(1つだけ)

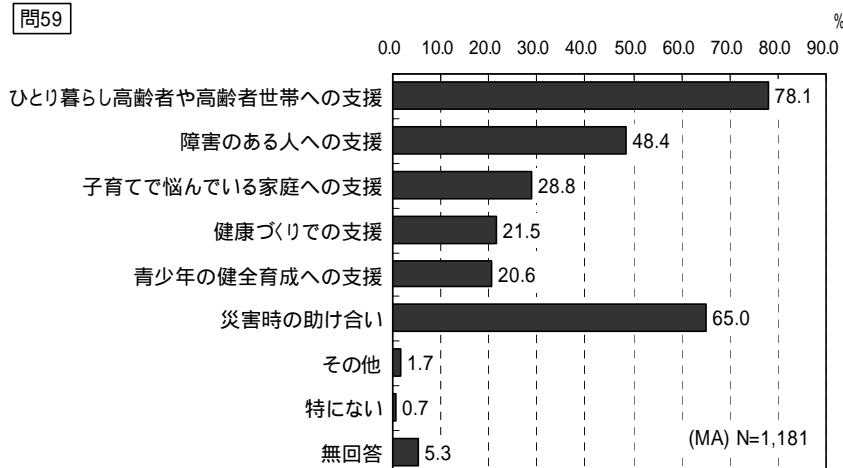
問58



(SA) N=1,558

問 59 問 58 で「1 必要だと思う」と回答された方にお聞きします。地域の人たちが特に取り組んでいくことが必要な課題はどのようなことだと思いますか。(はいくつでも)

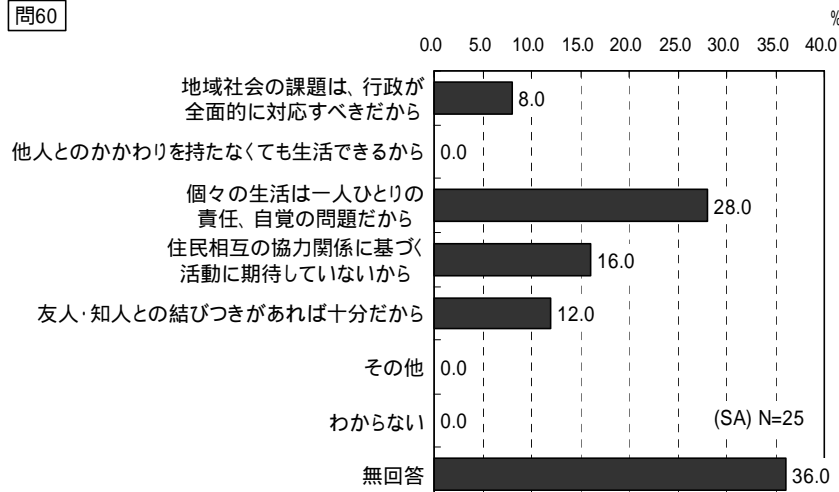
問59



(MA) N=1,181

問 60 問 58 で「2 必要だと思わない」と回答された方にお聞きします。地域住民相互の協力が必要だと思わない理由は何ですか。(1つだけ)

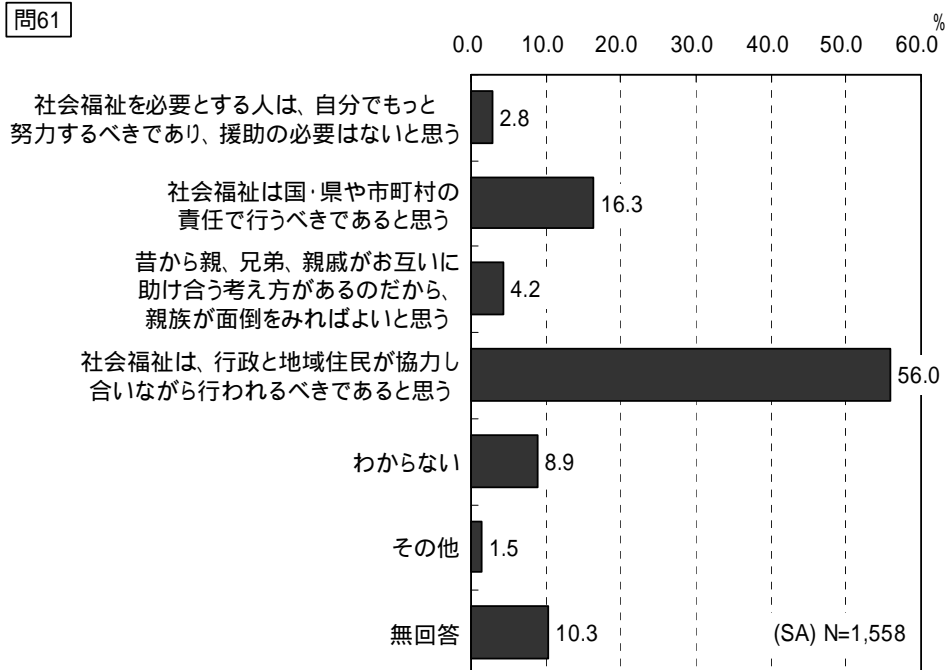
問60



(SA) N=25

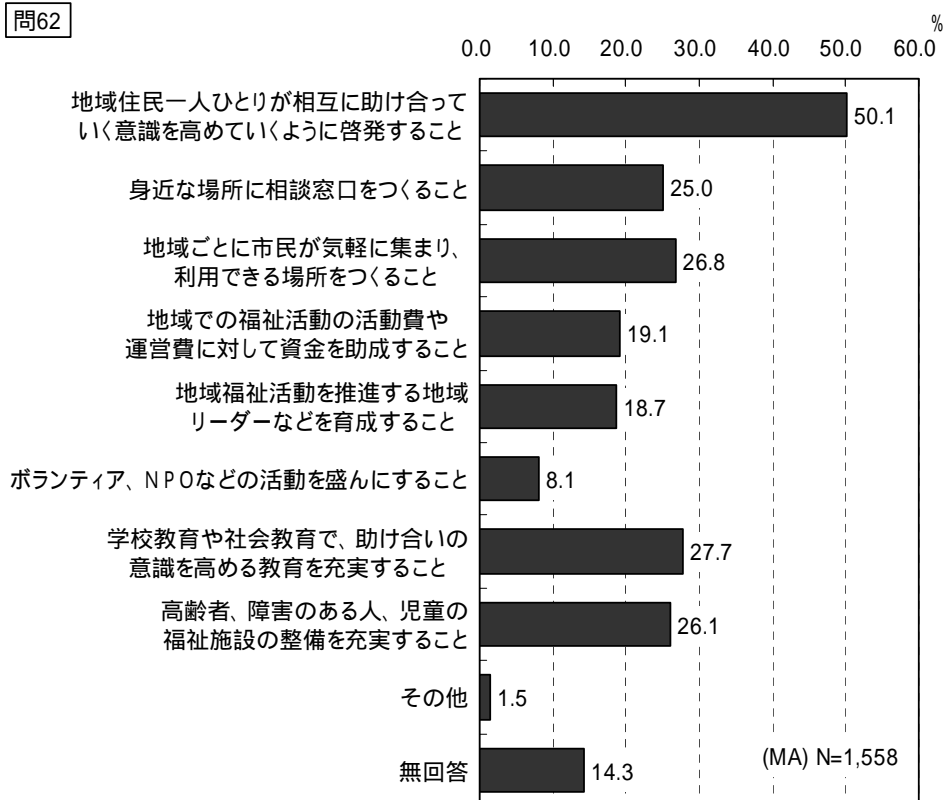
問 61 社会福祉のあり方について、あなたの考え方にもっとも近いものを選んでください。(1つだけ)

問61



問 62 地域福祉を推進するために、今後、何が必要だと思えますか。(は3つまで)

問62



平成 17 年 12 月 22 日

規則第 241 号

(趣旨)

第1条 この規則は、浜田市附属機関設置条例(平成17年浜田市条例第18号)第3条の規定に基づき、浜田市保健医療福祉協議会(以下「協議会」という。)の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(補欠委員の任期)

第2条 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第3条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 協議会の議事に当たり、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 協議会に、専門事項を調査審議するために専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、協議会から付託された事項及び保健、医療、福祉の各種計画に関する事項等について調査研究し協議会に報告する。

3 専門部会の委員は、協議会の委員のほか、必要に応じて市長が委嘱し、又は任命する。

4 前3条の規定は、専門部会について準用する。この場合において、「委員」とあるのは「専門部会員」と、「協議会」とあるのは「専門部会」と、「会長」とあるのは「部会長」と、「副会長」とあるのは「副部会長」と読み替えるものとする。

(関係者の出席等)

第6条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は市民福祉部調整室において処理し、専門部会の庶務は関係主務課において処理する。

(その他)

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、会長が会議に諮り定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日後又は委員の任期満了後最初に開かれる協議会の会議は、第4条第1項の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

5

浜田市保健医療福祉協議会委員名簿

(平成18年4月1日～平成20年3月31日)

関係団体	職名等	氏名	備考
浜田市医師会	会長	島田 康夫	会長
浜田市社会福祉協議会	会長	福重 照正	副会長 平成19年5月31日まで
		小谷 典弘	副会長 平成19年6月1日から
島根県立大学	准教授	川中 淳子	
リハビリテーション学院 島根	事務長	林 邦雄	
那賀郡医師会	会長	大屋 敏郎	
浜田歯科医師会	会長	草野 和茂	
浜田市薬剤師会	会長	川神 裕司	
浜田医療センター	院長	日野 理彦	
浜田市民生児童委員協議会	会長	岡田 繁	
浜田市保育連盟	会長	竺川 紹隆	
障害者団体	代表	室崎 富恵	
浜田市高齢者クラブ連合会	会長	中辻 一馬	
浜田保健所	所長	谷口 栄作	
浜田警察署	署長	岩田 晴雄	
浜田児童相談所	所長	小村 俊美	平成19年3月31日まで
		石橋 昌彦	平成19年4月1日から
浜田市校長会	会長	宇津 豊	平成19年3月31日まで
		福間 良治	平成19年4月1日から
浜田自治区地域協議会	会長	亀谷 利幸	
金城自治区地域協議会	会長	河西 堅	
旭自治区地域協議会	会長	小林 國雄	
弥栄自治区地域協議会	会長	西田 博光	平成19年11月20日まで
		小松原 茂	平成19年11月21日から
三隅自治区地域協議会	会長	三浦 一夫	

6

地域福祉専門部会委員名簿

(平成18年12月26日～平成20年3月31日)

関係団体	職名等	氏名	備考
浜田市連合自治協議会	会長	亀谷 利幸	部会長
浜田市高齢者クラブ連合会	副会長	布田 稔	副部会長
	副会長	肥塚 由美子	
浜田市身体障害者福祉協会	事務局長	津野 章	
社会福祉法人いわみ福祉会	知的障害者通所授産施設 くわの木&あゆみ施設長	石井 信孝	
浜田女性ネットワーク	理事	佐々木 千歳	
	理事	吉岡 静江	
浜田市民生児童委員協議会	理事	岡本 誠史	
浜田のまちの縁側	代表	栗栖 真理	
特定非営利活動法人 弥栄発生活リハビリネット	代表	岩田 芳江	
特定非営利活動法人 はとぼっぼ	相談員	棧 敷 学	
浜田市社会福祉協議会	地域福祉係長	三浦 聖二	
浜田市教育委員会生涯学習課	生涯学習係長	河上 やすえ	